

多摩北部医療センター

地域医療連携ニュース たまほく

46

〒189-8511 東京都東村山市青葉町1丁目7番地1 電話番号 042-396-3811 <http://www.tamahoku-hp.jp>

救急診療のご紹介

当院は東京都指定二次救急医療機関として、休日・全夜間の救急診療を実施しています。

救急医療体制

- ★・平日時間内（9時00分～17時00分）
《全診療科対応》
- ★・平日時間外（17時00分～翌日9時00分）
 ・土曜日、日曜、祝日、年末年始（12/29～1/3）（9時00分～翌日9時00分）
《5系列対応》
 - ①内科系：内科系医師 ④小児科 小児科医師
 - ②外科 外科医師 ⑤循環器内科：循環器内科医師
 - ③外科系：外科系医師（整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、リハビリテーション科）
- ★・平成24年上半期（4～9月）救急車受け入れ台数：1,794台
 ・平成24年上半期（4～9月）救急外来受診者数 8,879人



部長：三谷 健一

救急医療事業のご紹介

《脳卒中急性期医療機関A・B》

当院は「東京都保健医療計画」における脳卒中急性期医療機能を担う医療機関として東京都ホームページにも紹介されています。「脳卒中急性期医療機関」は急性期の脳卒中傷病者を収容する医療機関であり、

- ①脳卒中A：脳梗塞の超急性期において適応となる血栓溶解剤 t-PA の治療が可能な医療機関
- ②脳卒中B：前記以外の脳卒中急性期医療機関

に分類され、救急隊は対象患者を適切な医療機関に選定搬送しています。当院における対応は以下のとおりです。

- ・平日時間内（9時00分～17時00分）
脳卒中 A 対応
- ・平日時間外（17時00分～翌日9時00分）、
土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）（9時00分～翌日9時00分）
担当医師がいる時間帯は脳卒中 A 対応、他の時間帯は脳卒中 B 対応



《東京都CCUネットワーク》

東京都CCUネットワークは、急性心筋梗塞を中心とする急性心血管疾患に対し、迅速な救急搬送と専門施設への患者収容を目的とした東京都の特殊救急事業です。

この事業は、CCUを有する医療機関のみならず東京消防庁、東京都医師会、東京都福祉保健局との共同事業として運営され、当院も含め都内約70の施設が加盟し、心臓循環器疾患の救急にあっています。

当院の対応日：毎週火曜日 その他 月 1～2回

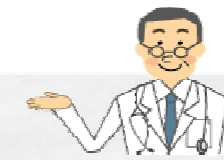
《救急の東京ルール》

東京ルールは、救急患者の“たらいまわし”をなくすため、地域の救急医療機関が互いに協力・連携して救急患者の受入先を探す東京都独自の「救急医療体制システム」です。

当院も地域救急医療センター（搬送困難な救急患者の受入先調整を行う医療機関）として参画し、地域の救急医療に取り組んでいます。

当院の対応日：毎週木曜日（休日は除く）

チーム医療の推進



連携担当副院長 若山 達郎

チーム医療とは、医師を含めた多職種の医療スタッフ（看護・薬剤・検査・放射線・リハ・栄養・事務）が専門性を発揮しながら協働し、患者さんに最良の医療を提供する仕組みです。当院では、**感染コントロールチーム、緩和ケアチーム、糖尿病療養指導チーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム**が組織横断的に活動をしています。また、**口腔ケアチームも新たに体制を作り動き始めました。**

一昔前までの医療には、最上位にいる医師の指示に他の医療スタッフが従うヒエラルヒー型の構図がありました。しかし、今日の高度に機能分化した医療は医師の許容範囲を越えており、医師のみではトータルな治療に結びつかない状況があります。チーム医療においては、真ん中にいる患者さんをサポートするために、医療スタッフが対等の立場で目標と情報を共有し協働する、まさに患者中心の構図となっています。

施設基準を満たせば経営面にも寄与し、医師や看護師の負担軽減のメリットもありますが、患者さんへの医療サービス向上という視点が最重要と考えています。

当院では、今後もチーム医療の推進に努めてまいります。

市民公開講座のお知らせ

講座名：「動脈硬化(ドウミャクコウカ)と血液サラサラ」

日時：平成24年12月21日(金) 14:00～15:30

会場：東村山市サンパルネコンベンションホール

講師：多摩北部医療センター循環器内科部長 村崎 理史

その他：参加費無料 事前申し込み不要



医師採用等の情報

《採用》

11/1 耳鼻咽喉科医員 吉富 愛

12/1 整形外科医員 渡邊 寿人

《退職》

11/30 整形外科医員 望月 貴夫

※常勤から非常勤へ

11/1 小児科医員 小濱 雅則

12/1 消化器内科医員 東郷 将希

患者さんの紹介に際して

《多摩北部医療センター 代表電話：042-396-3811》

《通常の予約》	予約センターへお電話下さい。 Tel：042-396-3190・042-396-3511 （受付時間：月～金曜日 9時～17時/土曜日 9時～12時） ※当院受診の際は患者さんに紹介状（診療情報提供書）及びその他必要な資料を渡して下さい。初診時に紹介状がない場合は、保険外併用療養費として診療代の他に1,300円加算されます。
《急ぎの予約》	代表番号より地域連携係（内線2073・2169）へご連絡ください。 （受付日時：月～金曜日 9時～17時）
《救急の場合》	代表番号より救急外来あてにご連絡ください。 各科連携担当医・看護師・地域連携担当事務等が対応いたします。
《放射線検査の予約》	代表番号より下記へご連絡願います。 （受付日時：月～金曜日 9時～17時） CT・一般X線⇒（内線2236） MRI検査 ⇒（内線2600） 核医学検査 ⇒（内線2240） 放射線治療 ⇒（内線2073・2169）（地域連携係）
《内視鏡検査の予約》	代表番号より内視鏡受付（内線7475）へご連絡願います。 （予約受付日時：月・水・金 9時～15時）

《地域医療連携ニュース「たまほく」に関するお問合せ》

地域連携係 担当：内田、鈴木 代表電話番号 042-396-3811 内線 2073 E-mail renkei@tamahoku-hp.jp

リハビリテーション科のご紹介

《外来診療日》

	月	火	水	木	金
午前	●	●	●	●	●
午後	補装具	摂食嚥下	高次脳	痙縮	

※月曜日午後：補装具外来、 ※火曜日午後：摂食嚥下外来
 ※水曜日午後：高次脳機能障害外来、 ※木曜日午後：痙縮外来



部長：鴨下 博

平素より大変お世話になっております。当科では、リハビリテーション科専門医（2名）理学療法士（7名）作業療法士（3名）言語聴覚士（3名）臨床心理士（1名）のスタッフ体制で、リハビリを提供しています。入院中の患者さんには月曜日から土曜日までリハビリを提供できるよう心がけています。急性期疾患で入院中の患者さんを主たる対象にしていますが、以下のような診療もおこなっています。

①亜急性期病床を利用したり・コンディショニング（入院）

日常生活で徐々に廃用が進行している在宅の患者さんに、リハビリ目的の入院をお勧めしています。

②義肢装具、車椅子の作成（外来）

③嚥下障害のリハビリ（外来・入院）

嚥下造影や嚥下内視鏡で障害を的確に評価して、安全な食事方法を検討しています。

④高次脳機能障害のリハビリ（外来）

精神保健福祉手帳の作成、臨床心理士や作業療法士によるリハビリ・神経心理検査などを実施しています。

⑤痙縮やジストニアに対するボツリヌス（ボトックス）治療（外来・入院）

ブロック注射だけでなく、リハビリが重要と考えており、理学療法や作業療法も実施しています。場合により、入院での集中的なリハビリを行うこともあります。

⑥各種書類作成（外来・入院）

身体障害者手帳（肢体不自由、嚥下、言語）のための診断書や、障害年金の診断書、訪問リハビリ指示書などを作成しています。

障害や介護の問題を抱えている患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご相談下さい。患者さんのご紹介の際は、月～金曜日午前中のリハビリテーション科の外来予約をしていただければ幸いです。

糖尿病透析予防外来を実施しています

※患者さんご紹介の際は、まず「内分泌・代謝内科」のご予約をお願いします。

当院では、今年の6月から糖尿病患者さん対象に糖尿病透析予防外来を行っています。

一般的に糖尿病患者さんのおよそ3分の1が糖尿病腎症を発症しています。糖尿病の三大合併症のひとつである糖尿病腎症は適切な治療を受けていないと発症して、20～30年で腎不全に進行するケースが多く、日本透析医学会の調査によると、糖尿病が原疾患で人工透析を開始する患者数は、年間約17,000人（平成23年12月末時点）と透析導入開始疾患の1位となっています。

人工透析療法の費用は高価で、患者1人当たり年間約500万円が必要と言われています。（日本では医療費の公的助成制度が確立しているため、患者の自己負担額は少ない。）糖尿病腎症を悪化させないためには、早期発見、早期治療が必要です。このため、**私たちの糖尿病透析予防外来では、医師、看護師、管理栄養士が一丸となって治療、食事管理、日常生活での注意点などについて分かりやすく説明、支援させていただいています。**

《糖尿病透析予防外来対象の患者さん》

- 1 HbA1Cが6.1%（JDS値）以上、6.5%（国際標準値）以上の方
- 2 内服薬やインスリン製剤を使用している外来糖尿病患者であって、糖尿病腎症第2期以上の方（透析療法を行っている者を除く）

担当：糖尿病看護認定看護師 町田 景子



脳神経外科のご紹介

《外来診療日》

	月	火	水	木	金
午前	●	●	手術日	●	●
午後	水頭症		手術日		

※月曜日午後：正常圧水頭症外来
 ※火曜日午前（青木院長）：「脳血管障害の予防外来」、「小児脳神経外科疾患外来」
 ※金曜日午前（金子医長）：「脳腫瘍外来」



部長：岡田 隆晴

脳神経外科では、脳卒中急性期治療、低侵襲手術に特色を出しています。

脳卒中急性期例に対しては、神経内科ほか各科と協力し、脳出血は緊急開頭手術、くも膜下出血はクリッピング術、脳梗塞はtPA治療を行う体制を整えています。一方、「脳血管障害の予防外来（青木）」を行い、予防と啓蒙にも努めています。低侵襲手術は、高齢者の脳神経外科的疾患、即ち慢性硬膜下血腫、特発性正常圧水頭症に対して、それぞれ、「**タッピングによる血腫酸素置換術**」、「**腰椎麻酔による腰椎腹腔短絡術**」を行っています。タッピング術は患者さんへの負担が少なく早期退院が可能です。（写真はタッピング術中風景および血腫除去用小穿刺針と局所麻酔剤）。「特発性正常圧水頭症外来（岡田）」では水頭症の診療だけでなく歩行障害、認知症一般のスクリーニングも行っています。その他、頭部外傷、脳腫瘍、頭痛一般についても診療を行っています。頭部外傷など緊急性の高い疾患は可能な限り即応しています。また、「脳腫瘍外来（金子）」、「小児脳神経外科疾患外来（青木）」も行っていますので、ご希望の患者さんがいらっしゃいましたらご紹介願います。



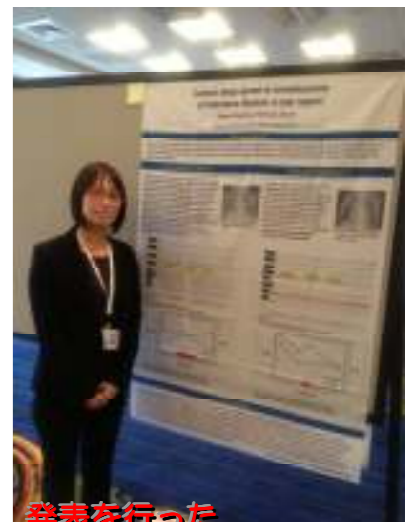
「タッピング術」です。
青木院長も手術に参加しています。



小児科豊福医師が国際学会で発表しました！

小児科シニアレジデントの豊福明和医師が10月4日からアメリカ・ボルチモアで開催された「乳幼児突然死学会」に参加しました。今回はISPID（International Society for the Study and Prevention of Perinatal and Infant Death）の評議会に招待されたこともあり、発表のみならず日本の研究成果の発信と、今後の国際共同研究への参加など様々な忙しい学会でした。SIDS学会は突然死で子供をなくされた遺族会との共同開催であること、参加者が法医学・病理学・小児科学・小児保健や疫学など多彩な専門家が参加するのも特徴の一つです。それは突然死発症の機序も原因も全く解っていないためです。世界各国の専門家が、それぞれの立場から突然死の究明と予防法や治療法を求めて集まってくるのです。

近年はSIDSよりもSudden Unexpected death (SUD)との概念が広まっています。これは予期せぬ死亡ですから、気管支炎など死に至るはずがないと思われる症例に起こった死なども含め、一連のスペクトラムとして捉えようとする考えです。今学会ではシニアレジデントの豊福医師が、気管支炎の回復期に発症したALTE（乳幼児突発的危急事態）の2症例を、生理学的考察を基礎に症例報告をしました。これはまさにUp to dateな研究の流れに沿うもので、高い関心と興味を持って参加者の注目を集めました。



発表を行った
小児科 豊福 明和医師